

御神宝 御大刀

御クツ有

御弓

右 菟道稚郎子

中 応神天皇

左 仁徳天皇

右之通奉拜候、御衣ノ色ハシレ不申候、左右ハ社ノ立様又ハ奉拜ニ説々御座候、掃部但馬奉拜書付上ケ申候、已上

子八月廿五日

神主宗直

右ハ上林殿江上ケ拜見被成、其マカエリ申候

是ハ上林殿ヨリ歸リ為後代書印ス

右ハ酒波美作ト申分有之、則離宮ノ神秘拜見被成タキヨシ上林峯順公巽山宗直ニジキニ御申被成、宗直申上候ハ、大事ノ神秘ニテ御座候ヨシ御断申ケレトモ、兎角書上ケ申様ニト御申候ニ付、別火シテ宗直ハ重宗知三人神殿江入トビラヲヒラキ奉拜ニ、大宮殿ハウラニ書申通也、神体ノ御衣ノ色ハキイロニ奉見ル、中ノ御神体ハ知レカタク、則宗直心入ヲ以テ其中ニ相応ナル像ヲ中ニ立置申候、ズシハナシ、若宮殿ノ御神体ハ聖天供ノ像入テ有リ、則ズシノ中江入神体ニ用テ有、宗直申ケルハ、是ハ先祖ヨリアヤマリ置タル物ナルヘシ、兎角此刻ナレハ自然吉田殿ヨリ尋ニ来ル事も有之候ハ悪敷事ナリト、宗直広重宗知相談シテ聖天ノゾウヲトリ出シ神殿ノ内ニテ相応ナル御神体見立入置候、此御神体ハ御衣ノ色白ク御座候、中ノ神体ノ色ハ黒ク奉見

右之事、但馬掃部宗知三人ヨリ外一子ニモキカセ申マシクト、カタク

神前ニテチカイヲイタシ申候、為後代書付置申候、若宮殿ノ神体ニ聖天ノゾウヲ入置候事、先祖アヤマリナルヘシ、大秘中ノ秘也、ズシハ太宮若宮殿ニ有、中ニハナシ

佐伯掃部頭宗直(印)

元禄九丙子八月廿五日

中村但馬守広重(印)

佐伯氏宗知(花押)

一五三 口上書(上下兩社につき)

元禄九年(一六九六)八月二五日

口上書

一 寺社御改之時、上之社下之社別々ニ書上ケ并絵図差上ケ申写御座候、下ノ社者酒波より差上申候御事

一 御巡見衆様江延宝五年巳極月六日ニ、上之離宮山社之境內書上申候写御座候、下之社者別ニ酒波方より差上申候御事

一 慶長拾七年十二月日、板倉伊賀守様より上之社江被下置候御制札、離宮八幡境內与御座候御事

一 慶長五年正月朔日、上ノ社奉加板裏書髓御座候、此儀者別紙書写差上申候御事

一 永正十三年丙子九月十日棟札之写御座候、則左方長者光基と御座候御事

一 離宮八幡上下之社御正躰、御建立之始、宇治橋懸り始、川嶋之塔之事、上ノ醍醐水本大僧正之御宝藏ニ委細書付御座候由、即恵心院先住三四十以前二書写、私親権大夫ニくれ置被申候、御本紙者定而水本殿御宝藏ニ可在御座と奉存候御事

一先年上之社及大破候刻、祖父掃部江戸江罷下り御旗本百六拾人余奉加仕、不残修復仕候、此節も酒波方より少もかまい不申候、則奉加之古帳慥御座候御事

一慶安五年辰六月五日、興聖寺建立之時、上之離宮山半分遣し申候手形之写御座候、此儀茂酒波方より少もかまい不申候御事、判形者宮村掃部同権大夫、中村三郎兵衛、辻清左衛門、市、真木嶋惣百姓中連判御座候御事

一上ノ社遷宮之時、我等家二成人之子無御座候時者下ノ社之高田式部雇務申候、成人之一子無御座候時者雇不申候、此時も酒波方より一切差出申事無御座候、下ノ社遷宮之時も式部家二成人之一子無御座候得者掃部但馬雇申候て相勸申候御事

一寛文十年戌九月廿五日、上ノ社より下ノ社之御手洗江水遣し候時も依為別宮、酒波方より色々断を申水申請度由望申候故、則手形致させ遣し候手形御座候御事

一惣而正月其外五節句等にも上ノ社之社家より酒波方江礼儀相勸申候事、終無御座候御事

一上ノ社之儀二付、酒波方江相談かましき儀一切仕候事竟無御座候御事

一下ノ社江八幡より社僧被參候事、正月七日、四月十五日、五月十五日、但下ノ社斗、上ノ社江者參不被申候御事

一毎年十二月晦日二酒波方より上而社江鏡餅備申候、又上之社よりも下ノ社江正月三日二備之餅上ケ申候御事

一無本社之書上ケ、延宝九年五月十一日、上ノ社下ノ社社家一所二仕連判二て差上申候写御座候御事

一氏子之儀者宇治真木嶋三室村大鳳寺村、但大鳳寺村者村半分、宇治之氏子分は鷺之橋念仏橋い川切、乙方町馬場町にて御座候、氏子わけ之印八、三月三日二上ノ社より酒屋中江御酒集め申候御事、鷺橋念仏橋い川切、無神月二作り初尾之米集め申候も右之境切迄、是ハ十月之御神事御供二上ケ申候、其外三室大鳳寺榎島同事御座候御事一祭礼者往古より同日二致来候、奉幣者上ノ社より勤来候、御旅所者酒波支配にて御座候故上ノ社二社之神輿御旅所江遷し申候て者、御旅二一所二置候付、散錢散米等遣し申候、但而社之燈明之油、真木嶋より遣し申候御事

一御旅所二て上ノ社掃部但馬、下ノ社高田式部、三人之薙を拜殿にて敷申候事、宮本左近役二て御座候、近年はゆるし名代二為致申候御事

一下ノ社芝田右京者、上下ノ御正躰之御座疊仕候役二而御座候故、遷宮之節疊為致申候御事

一橋姫之宮遷宮之儀、從御公儀様被為仰付、権大夫家より代々相務来申候、其外社も二社とも二新敷成申候得者、古社端籬等迄拝領仕候遷宮仕候書上ケ写御座候、宇治橋かゝり申候刻水神祭も從御公儀様被為仰付、権大夫家より代々相勤来候、此義も差上申候写御座候、其外浮船之社、又ふり之社遷宮代々相勤来候御事

一右之氏子分之儀二御座候得共、宇治之氏子中絶、様子存うしなひ下ノ社ノ氏子之様二罷成候段神慮も恐敷奉存候、此儀者兼々奉願上度存罷在候、此節口連如先例之氏子分被為仰付被下候者難在可奉存候御事

右之品々申上候通二、上之宮二は真木嶋一ノとねと申長者御座候得

共、八九十年以前二絶申候、其後上之社ノ儀二付、何にても酒波方よりかまハせ不申候、以上

宮村掃部 (印)

元祿九年子八月廿五日

中村但馬 (印)

辻左京 (印)

辻右近 (印)

峯順公様

一五五 口上之覚 (神主号につき)

元祿九年 (一六九六) 九月一八日

口上之覚

一当春美作儀、神主号ヲ吉田殿より御許容之上、掃部も願神主号申、当秋御許容在之付、依之拙者存寄口上書ヲ以御断申上候処二、御聞届、双方へ御異見ヲ御加へ被成下候二付、双方申分無御座候、此上神事祭礼等前々より在来候通相務、新法之儀少も仕間敷候、為後日如斯御座候、以上

元祿九年子九月十八日

酒波美作守 (印)

長茶宗味 (印)

峯順様

一六八 菟道宮二座 (祭日等)

正徳三年 (一七一三) 六月二四日

菟道宮二座

一延喜元年勸請之由 申伝候御記録等も無之不分明候

一御祭日 四月八日 神輿出于権殿 延宝八年改八月為十五日へ同

五月八日 奉還于本宮也 下之社へ

一神供三膳

正月元日 献鏡餅へ有飾物へ 二重へ是於酒波家設之、自下ノ社

献此社へ 及神供

三膳于此社設之献当社本宮以下皆同之

二日三日 供神膳同上

七日 供鏡餅

月朔 供神膳同上

二月中卯 御神楽 供神膳同上

四月五月八日 供神膳同上へ此以為旧祭之日故如此例有へ

六月 名越ノ稗 供神膳同上

十月 初穂祭 供神膳同上

十一月中卯 御神楽庭火祭 供神膳同上

十二月上ノ申 御煤掃 供神膳同上

末社六座此日各供神膳

一御本宮 へ四間二六間へ

一御紋 三橘

右之通御座候、宜御沙汰奉願候、以上

正徳三年癸巳六月廿四日 上乃社神主

宮村掃部頭 (印)

御役人中様

五 離宮上社除地控

享保四年(一七一九)一月
(表紙)

離宮上社除地控

離宮上社

社内構 東西貳拾五間半

南北貳拾間

一除地 馬場筋 東西三拾一間

南北四間

山林 高廿百貳拾間

橫百六拾間

右惣境内御神領

御朱印者中昔退転仕候由申伝候

明神号 離宮大明神

宮号 菟道宮

一離宮太神二座 山号 菟道山 且有背離宮之号

相殿一座 旧号 桐原日桁宮

離宮八幡宮

一右者中古醍醐天皇延喜元年御造營之由、年記不分明候

神名式曰 宇治神社 二座 歛靱 内一座是也

宇治槇島三室大鳳寺惣産氏神二御座候

一本社 間口六間 檜皮葺

奥行三間 口棒

肘木作破風懸魚有

一拝殿 梁三間 但シ八尺間同断

桁行九間

御拜立肘木作破風千鳥破風楓格子懸魚三斗舁形有

末社

一春日神社 間口老間半 檜皮葺

奥行貳間

一住吉神社 間口三尺 同

奥行四尺

一香椎神社 同断 同

一嚴島神社 同断 同

一両大神宮 拜所 同

一神庫 貳間四面 瓦葺

破風懸魚有

一御手洗 梁行老間一尺五寸 檜皮葺

桁行老間半

破風懸魚有

一一之鳥居 高廿貳間半一尺

横 貳間半

一二之鳥居 高 老間貳尺一寸

横 老間老尺

一地蔵堂 貳間四面 瓦葺

右境内二御座候

一末多武利神社 三尺四方 柿葺

境内 南北四間 除地

東西六間

右之通今度御改被為仰出候付、吟味仕指上ケ候、全ク相違之義無御座候、以上

享保四己亥十一月

上社神主

宮村掃部頭

宗直印

同 祠官

中村出雲守

重利印

一公儀御奉納之神物

慶長十三年

歌仙 六枚 三十六首 式通

慶長十七年

御制札 板倉伊賀守殿 御本紙

右者権現様当社江御成御參詣有之、右之御制札被下置候由申伝候、依テ奥書二上意之旨御座候、別紙二写指上申候

一神位 往古人皇御代神位旧記相知レ不申候、推古天皇二十有七年命

勅使奉聖化大皇諡云也

一正一位宣旨 吉田執奏

正徳三年中

一神事祭祀 神行四月八日

還幸五月八日

神輿 三座

御幣 五前

奉納之御劔

付 渡御之節御屋鋪ヨリ奉行出ル、惣社家往古ヨリ什来武具供

奉之節為持渡リ候

右武具之内両社鉄鉈合十二挺へ内二挺上ノ社へ先御役所へ相渡

置申候

右之日以旧例神秘作相務、天下泰平之御祈祷奉勤仕候

年中諸神事者専天下泰平之行御祈祷、畢テ次当所安全ノ加持、自往

古深秘伝来之順作法、御朱印御神領下行以下、退転以来以社家ノ力

ヲ無怠慢諸行事相勤、神祇道之御修目奉相守御事

一字治橋御造作之節古柱古板等拝領仕、則社納仕候

右之趣御改被為仰出候付、吟味仕指上申候、全以相違之義無御座候

以上

菟道宮神主

享保四年己亥十一月

酒波因幡守

同上社神主

宮村掃部頭

六 菟道離宮上社兼帯(神社改)

享保四年(一七一九)一一月

(表紙)

菟道離宮上社兼帶
社家中

離宮上社兼帶神社

又兵衛様

御屋敷

上林三八(印)

横老尺
奥行老尺三寸

門太郎殿

御屋敷

星野宗以(印)

横老尺七寸五分
奥行老尺三寸

同人(印)

鳥居立
奥行老尺七寸五分

芝田若狭(印)

一稻荷神社
字鍛屋敷有

一稻荷神社
三尺四方

一うはそこの社
式尺五寸四方

槇島

辻左京

上林味卜(印)

一住吉神社

右者公儀御社境内共

但シ神事祭礼并遷宮等者從上社兼帶仕候

一水神祭 宇治橋新造并御修復等之節同上社御代々相勤来り候、勿論

其節下形頂戴仕候

一諏訪神社

大路方町(印)

神名記曰、宇治彼方神社一座是也

境内 三間四方 無高除地

禁中御領

一浮船神社 横式尺三寸

三室村領内

奥行二寸

境内 三間

四間

知積院知行所

一巖島神社

大鳳寺村

大神宮

同所

禁裏様御領

一離宮神社

志津川村

右鎮守從往昔有来り候離宮社兼帶紛無御座候、然ル所今度御改被為仰出候付、吟味仕右之通相違無御座候、勿論新地新社二而者無御座、前々より神事祭礼并遷宮等從上社相務来り候、此以後神祇道之御条目之趣急度可申候、依如件

享保四年亥十一月

同 祠官

中村出雲守(印)

上ノ社神主

宮村掃部頭(印)

(裏表紙)

「宮村氏」

一八五 御通御茶師宮村權太夫事 (由緒)

享保五年 (一七二〇) 二月一〇日

(端裏書)

「宮村」

御通御茶師宮村權太夫事

從先祖

離宮大明神普代之神職宮村掃部頭佐伯宿祢宗直也

右系図ハ去ル亥十一月社家御改之節指上ケ置申候

一御通御用之始祖者

大猷院様御代 慶安二年始テ此御用被為仰付 掃部宗吉也

御茶道衆相知不申候

同事ニ御用相勤ル

常憲院様御代 從貞享五年詰上ケ申候

御茶道衆相知不申候

右宮村家者代々神職ニ而御座候得共、御茶仕候故、右之御用相勤

来り候、以上

享保五年子二月十日

宮村權太夫 (印)

又兵衛様

証文印 (印)
茶方印 (印)

宮村治太夫 (花押)

右ハ又兵衛様上ル写也

右通任仲間所々口仕上ケ也

二三五 (作事改につき届書)

天明八年 (一七八八) 一二月

城州久世郡槇島村

氏神

宇治郡宇治

上社

離宮大神

神主

宮村縫之助

(境内建物図次頁)

一右本社、梁行三間五尺桁行六間、屋根檜皮葺切妻、棟獅子口上階登

り高欄演縁高欄付、離宮大神三社相建有之候

一拝殿、梁行三間桁行九間半、老小間屋根檜皮葺入モヤ、西之方巾四

尺長三間小口縁高欄付、東之方巾四尺長三間小口縁高欄付、北之方

巾四尺長拾老間小口縁、南之方巾五尺長拾老間小口縁九間高欄付、

棟獅子口上狐格子四角スカリ破風并前拝間口式間奥行老間屋根檜皮

葺組物舁形ミツトウ臺マタ階登り高欄付、夫々間仕切相建有之候

右拝殿屋根破損ニ付瓦ニ而仮葺仕有之候

一春日社、間口九尺奥行老間、屋根檜皮葺切妻、棟獅子口上、東之方

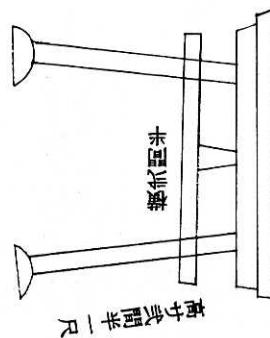
巾式尺長式間演縁高欄、西之方巾式尺長式間演縁高欄、南之方巾式

尺長式間演縁老間高欄付、階高欄付相建有之候

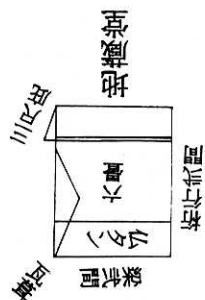
右春日社大破ニ付、梁行三間桁行式間半、老小間葺屋根瓦葺相建

有之候

- 一 巖島社、間口三尺奥行四尺屋根檜皮葺、相建有之候
 - 一 住吉社、間口三尺奥行五尺五寸屋根檜皮葺、相建有之候
 - 一 香椎宮社、間口三尺奥行五尺五寸屋根檜皮葺、相建有之候
 - 一 末多武利社、間口三尺奥行三尺屋根檜皮葺、相建有之候
 - 一 神庫、梁行式間桁行式間半屋根瓦葺、相建有之候
 - 一 御手洗、梁行老間半桁行式間屋根檜皮葺、相建有之候
- 右御手洗屋根破損二付瓦二而仮葺仕有之候



御



- 一 地藏堂、梁行式間桁行式間屋根瓦葺、西之方三尺庇相建有之候
 - 一 一之鳥居、横式間半、高廿式間半老尺、相建有之候
 - 一 二之鳥居、横老間老尺、高廿老間式尺老寸、相建有之候
- 右之外御制禁之作事絵様等無御座候、以上

天明八年申十二月

城州久世郡槇島村

庄屋善左右衛門

年寄助右衛門

御奉行様

No.235 (作事改につき届書) 天明8年(1788年)12月

図部分

棟札

宇治上神社に伝来する棟札は現在までに一〇枚確認されている。うち七枚は古文書とともに当館に寄託されているが、のこりの三枚については今回確認できなかった。ここではすべてを年代順に翻刻紹介するが、前者(■1など)は原物から直接解読・採寸したものの、後者(

□3など)は昭和五九年に京都府教育委員会から当市の教育委員会を経て宇治上神社に送付された棟札の調査結果を転載した(添付された写真のコピーから一部補訂、寸法は尺寸より換算)。寸法の単位はセンチメートル。

■1 元禄一〇年(一六九七)

縦六三・七 横二〇・六

于時丁元禄拾年

庄屋辻喜市郎

辻太郎左衛門

山上九兵衛

肝煎森市左衛門

小遣庄助

前川善左衛門

源三郎

同新助

奉修造離宮八幡城州久世郡槇島村惣中ノ為

丑九月七日

左方正野工藤原朝臣槇島住人福山氏

七左衛門尉□□次
伝七郎□笹重

登野住長□郎

伏見住□□衛門

仕手□□兵衛

(裏面)

願主息災延命処敬白